



環境

持続可能な社会の実現に向けた環境対策

ヤマトグループは、気候変動や大気汚染、資源枯渇、生物多様性の損失などが、持続可能な社会の実現にとって重要な課題であることを認識し、環境への取組みを強化しています。

CO₂目標と実績

ヤマトグループは、環境の具体的な目標としてCO₂目標を定めています。

CO₂目標2019

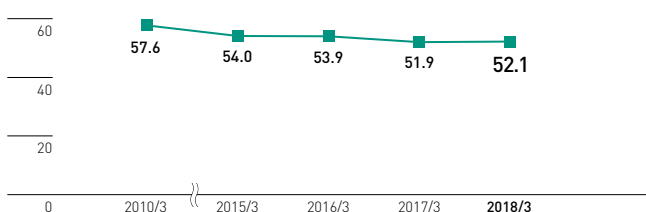
2020年3月期にCO₂排出量原単位(t-CO₂/営業収益1億円)2010年3月期比10%減

2018年3月期実績

	2010年3月期 (基準年)	2018年3月期 (実績)	基準年比
CO ₂ 排出量原単位 (t-CO ₂ /営業収益1億円)	57.6	52.1	-10%(目標達成)

CO₂排出量原単位の推移

(t-CO₂/営業収益1億円)



気候変動への取組み

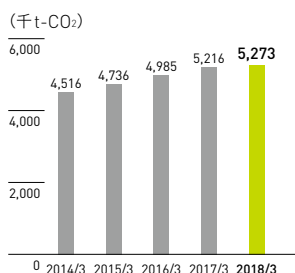
気候変動は国際社会の最重要課題の一つです。ヤマトグループに関わる気候変動の影響として、施設や車両、燃料の環境規制強化による対応コストの増加や異常気象により、宅急便事業の継続が困難なエリアが増えることが考えられます。

ヤマトグループは、環境保護宣言の「輸送のエコ」や「施設のエコ」で低公害車の導入や台車を使った集配、省エネを推進し、気候変動リスクの緩和を図り、サービスの継続性を高めています。



リヤカー付き電動自転車

電動アシスト自転車台数推移



また、低公害車などへの切り替えは、大気汚染対策としても重要と考え、注力しています。

低炭素集配と低炭素車両の導入

ヤマト運輸は、市街地や住宅密集地域では、極力、車両を使わずに集配を行っています。また、低公害車へのシフトを進め、例えば、2018年3月現在、128台の電気自動車を使用しています。

幹線輸送の効率化

ヤマト運輸は、主要都市間のより効率的な幹線輸送を実現するため、「スーパーフルトレーラ25」(車両長25mの新規格の長大連結トレーラ)を日本国内で初めて導入し、厚木、中部、関西の各ゲートウェイ間で運行を開始しました。幹線輸送を効率化し、CO₂排出量の削減を図ります。



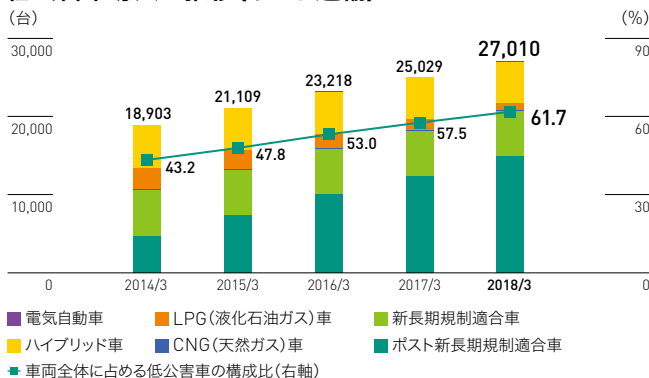
スーパーフルトレーラ25

低炭素に貢献するサービスの提供

宅急便事業において再配達を減らすことは、お客様のご都合に合わせた質の高いサービスを提供することだけでなく、CO₂排出量削減にも直結します。ヤマト運輸は、お荷物を受け取るお客様の利便性を向上するサービスを充実させて、配達効率を向上し、CO₂排出量削減に貢献しています。「オープン型宅配便ロッカー*」の設置やクロネコメンバーズ向けサービスはその一例です。

* 設置台数：約3,200か所(2018年10月末現在)

低公害車導入の推移(ヤマト運輸)



▶ より詳しい情報は、当社ホームページ「CSRの取り組み」をご覧ください。
<http://yamato-hd.co.jp/csr/index.html>